

すいちゅう かいどう せいご けつこうちゅう*1
 鍾虫)・貝殻・サンゴ・有孔虫の殻などが堆積してできる。サンゴ礁起源の
 石灰岩は、低緯度の温暖な浅海で形成される。チャートはSiO₂に富む放散
 ちゅう*2 虫の殻などが堆積してできる。

ぎょうかいがん
 凝灰岩などの火山噴出物が固結してできる岩石は、火山の比較的近くで形
 成される。地球上の火山は特定の地域に集中して分布しているので(p.26 図
 4)、凝灰岩などの分布も限定されている。

▼表 1 堆積物と堆積岩の分類

堆積岩の分類	堆積物(固結していないもの)		岩石名
砕せつ岩	礫	直径 2 mm 以上	礫岩
	砂	直径 2～1/16 mm (0.06 mm)	砂岩
	泥 { シルト*3 粘土	直径 1/16 mm (0.06 mm) 未満	泥岩
火山砕せつ岩	火山礫と火山灰 火山灰		凝灰角礫岩 凝灰岩
化学岩	CaCO ₃ を主成分とする SiO ₂ を主成分とする NaCl を主成分とする CaSO ₄ ・2H ₂ O を主成分とする		石灰岩 チャート 岩塩 石こう
生物岩	フズリナ・貝殻・サンゴなど(CaCO ₃ を主成分とする) 放散虫の殻(SiO ₂ を主成分とする)		石灰岩 チャート

やってみよう 堆積岩を観察しよう

川原や身近な場所で採取できる堆積岩をルーペで観察して、堆積岩を構成している粒子の種類や大きさなどから表 1 を参考にして分類してみよう。また、粒子の形や丸みの程度、大きさなどから、それらのもとになった堆積物がどのような運搬作用、堆積作用を受けたのか考えてみよう。

*1 水中で生活する微小な単細胞生物で、CaCO₃ に富む殻をつくる。現在の海洋にも生息しており、沖縄県などで見られる「星の砂」は有孔虫の殻が死後に堆積したものである。
 *2 水中で浮遊し生活する微小な単細胞生物で、SiO₂ に富む殻をつくる(p.80 図 20 (b))。現在の海洋にも生息している。
 *3 泥のうち直径が 1/16～1/256 mm (0.06～0.004 mm) のものをシルト、直径が 1/256 mm 以下のものを粘土という。